

◆◇精神医療界のドンが1時間以上喋り、他の委員の発言は「3分以内に」

とても奇妙な「地域で安心」検討会◆

医療・福祉の現場と政策担当者、約3000人が読んでくださっている通称「えにしめーる」で、第10回「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」の様子がYoutubeで配信されます、とお知らせしましたら、これを見た「えにし」のみなさまから、実に沢山のメールをいただきました。そのいくつかをコピペさせていただきますね。（いただいたメールの中の検討会委員の個人名は省略しました）

★★検討会を、リアルタイムで見られる初めての機会と期待してクリックしました。少し遅れて入ったところ、ひとりの男性が長々と話して続けているのに当惑。

「あれ、講演会だったのか」と思いましたら、有名な山崎学・日精協会長だったのですね。全体が3時間15分ほどなのに、この「講演」が1時間以上なのがなぜなのか。謎でした。

★★「地域で暮らす」をうたった法人の代表の山崎学氏へのよいしょ発言に驚きました。他の委員も、誰も山崎氏の奇妙な理屈を批判しないことに驚きました。

★★「検討会や審議会というものは、役所の筋書き通りにうなずいてくれる委員を選んで開かれるもの」ときいてはいましたが、それが、目の前で展開するのに驚きました。

★★山崎会長の発言とその後の研究者による忖度発言まで拝見しました。

公費によって、公平な立場で地域精神医療の研究をしているはずの委員が、精神病院業界のボスに対しておべっかを使う姿に震撼しました。「先生のお教えはためになりました。」というような。これで世の中がよくなるわけがありません。

★★山崎会長の発言・討論に1時間半以上費やして、挙句の果てには「（他のみなさんのご発言は一人3分にしてください。）」

これを見た人は、この茶番に驚くと思います。

このような偏頗な議事進行に対して誰も異議を述べない。私にとって最も驚きなのは、司会者に促されても、山崎氏に反対する発言が一つも出なかったことです。

★★「30年などの長期入院の人は、地域に帰ることはできない」との趣旨の発言が山崎会長からありました。

震災で精神病院から解放された時男さんが、地域で生き生きと暮らしている様子が、NHKで放送されています。「グループホームを作ることなどしていない」との趣旨の発言もありましたが、「あみ」や「ヤドカリの里」「こらーるたいとう」をはじめ、グループホームの運営は各地で行なわれています。

★★「身体拘束や医療保護入院については、別の研究会などをつくる」という方法で、厚生労働省は、結論を「先送り」しようとしていることか、事務局の議論の進め方からわかりました。

★★障害者虐待防止法による通報義務のおかげで、知的障害分野で、事実がつぎつぎと明るみにでていきます。ところが、知的障害分野の虐待について厳しい論陣をはっていた方が、なぜか、「虐待防止法ではなく精神保健福祉法の中に位置づけるのが望ましい」という意味のことを主張していました。不思議です。日精協の軍門に下ったように見えました。

★★まるで、プーチンのロシアみたいに思えました。

ロシアの人たちがプーチンを批判したら殺されるかもしれないけれど、ここは日本。厚生労働省や山崎氏を検討会で批判して殺されることはないのに。この業界から抹殺されることを畏れているのでしょうか？

以下は、

★★共同通信の記事（2022年05月09日）です。

病院協会長が異例の出席／精神医療検討会、困惑も

精神医療の在り方に関する厚生労働省の有識者検討会が9日開かれ、日本精神科病院協会（日精協）の山崎学（やまざき・まなぶ）会長が参考人として出席した。

検討会は、家族らの同意で患者を強制的に入院させる「医療保護入院」制度の縮小に向け議論しているが、山崎氏は「同制度を廃止したら、精神医療は完全に壊れる」と主張した。

検討会は5月中に報告をまとめる予定で、終盤での参考人出席は異例。

山崎氏は安倍晋三元首相と親しく、強い政治力があるとされる。出席は本人の希望といい、検討会の他の委員からは「厚労省や議論をけん制する意図があるのではないかと」困惑する声も出ている。医療保護入院は不要な長期入院が問題になっているほか、国際的に人権侵害との指摘がある。

山崎氏は検討会で「国は民間病院に大変な患者を押し付けている」と政府の政策を批判。過去の無差別殺人事件を例に挙げ、強制的な入院制度の必要性を訴えたほか、「一部の人が『ひどい身体拘束が行われている』と精神科病院への偏見をあおっている」と話した。

厚労省は3月の検討会で、医療保護入院について「基本的には将来的な廃止も視野に、縮小に向け検討」としていたが、4月に「将来的な継続を前提とせず、縮減に向け検討」と修正。日精協の反発を受け、表現を後退させた経緯がある。

P. S.

内閣府の障害者政策委員会の録画記録は終わってからも、そのまま見られるのですが、この検討会は終わってしまったら見られない仕組みです。